

日本語・イタリア語における 「時刻指定表現」の対照研究

古 浦 敏 生

日本人が生活する一日の時間帯として、「朝、昼、夕(方)、晩、夜」などがある。これに対応するイタリア人の時間帯に、「*mattina*、*pomeriggio*、*sera*、*notte*」などがある。これらの語彙は「生活時間語彙」¹⁾としてまとめることとする。大まかに言えば、「朝」が *mattina* に、「昼」が *pomeriggio* に、「夕方」が *sera* に、「夜」が *notte* に対応するであろうことは容易に推測できるのであるが、細部にわたって検討してみると、事態は簡単ではない。

ここで、次の用例を検討してみよう。

(例1) 不思議だな。同じ夜空の下で今、2人ともおなかをすかしているんだからな。(吉本ばなな『キッチン』p.142)

(例2) Però, è stranissimo. Siamo tutti e due sotto lo stesso cielo di notte, tutti e due a stomaco vuoto.(『同上、イタリア語訳』p.84)

(例3) そう思いながら、夏近い夜空の下を歩く。(吉本ばなな『白河夜船』p.12)

(例4) È con simili pensieri che cammino sotto il cielo di sera che si avvicina all'estate.(『同上、イタリア語訳』p.13)

(例1)と(例3)は吉本ばなな『キッチン』と『白河夜船』の原文である。(例2)は(例1)の、(例4)は(例3)のイタリア語訳である。同じ「夜空」という表現が *cielo di notte* となったり、*cielo di sera* となったりしている。(cieloは名詞「空」、diは「～の」を表わす前置詞)。『イタリア語辞典』²⁾の説明では、*notte* と *sera* との違いは、当該の人物(主語または話者)が寝ているか、起きているかに掛かっているように思われるのであるが、(例1)に登場する空腹の2人も、(例3)に登場する歩行者も、いずれも就寝中ではなく、起きている状態である。

さて、ここに現われる「夜空」であるが、この夜の時刻が何時なのかは不明である。日本人も同様であるが、そもそもイタリア人は「夜」を何時頃から何時頃までであると認識しているのであるだろうか?この疑問は必ずしも「夜」に限ったことではなく、「朝」・「昼」・「夕(方)」に対しても言えることである。

なお、イタリア文化会館刊行の『イタリア関係図書目録(1980年度～2008年度)』のう

ち「言語」の項目を調査したかぎりでは、このようなテーマを扱った先行研究は見つからなかった。

そこで、吉本ばなな『キッチン』・『白河夜船』や井伏鱒二『黒い雨』など 20 編の日本文学作品とそれらのイタリア語訳^③を資料として、そこに現われる「生活時間語彙+時刻(○時○分)」という表現、すなわち、「朝の 7 時 30 分」・「昼間の 11 時」・「夕方の 6 時」・「真夜中の 12 時」などの表現(筆者は「時刻指定表現」と命名する)を抜き出して、それに対応するイタリア語訳の箇所を照合・検討した。たとえば、(例 5)の下線部「夜の十一時すぎ」は、(例 6)でも「notte」と認識されている。

(例 5) 雌雄は…夜の十一時すぎから明方までに産卵の支度に取りかかる。(井伏鱒二『黒い雨』 p.235)

(例 6) maschi e femmine…dalle undici passate della notte fino all'alba facevano i preparativi per la deposizione delle uova。(『同上、イタリア語訳』 p.302)

この種の用例の集計結果、日本人もイタリア人も午前中の生活時間感覚はほぼ同じであることが分かった。但し、午後に関しては顕著な差が存在した。すなわち、日本人には昼と夕方が比較的短く、夜が長い。それに対して、イタリア人には夜が比較的短く、昼と夕方が長い。(もちろん、時間帯によっては、生活時間語彙が競合することも多い)。この昼と夕方が長いイタリア人の感覚は、昼食を正餐としていることや南イタリアにおけるシエスタ(siesta「昼寝」)の習慣に拠るものであろう。

今回の調査は文学作品を拠りどころとしたものである。今後は、地域差・季節差・男女差・年齢差などを考慮した社会言語学的なアンケート調査も必要であろう。

注

- 1) 「生活時間語彙」という名称は、柴田武『語彙論の方法』1988、三省堂、p.266 に基づいている。
- 2) 池田廉ほか 4 名編『伊和中辞典』第 2 版、1999、小学館によれば、notte は“ふつうの人が寝ている時間を指して夜(p.1004)”と、sera は“夕方から、真夜中ごろ一般に人が寝るまでの時間帯を指す(p.1426)”とある。
- 3) ここでは、本発表要旨で使用した用例の出典のみ提示しておく。

井伏鱒二『黒い雨』1986、第 37 刷、新潮文庫

吉本ばなな『キッチン』1990、第 62 刷、福武書店

吉本ばなな『白河夜船』1993、第 6 刷、福武文庫

Ibuse Masuji : *La pioggia nera*, a cura di Luisa Bienati, 1993, Marsilio Editori
Venezia

Yoshimoto Banana : *Kitchen*, traduzione di Giorgio Amitrano, 1988, Milano

Yoshimoto Banana : *Sonno profondo*, traduzione di Giorgio Amitrano e Alessandro Giovanni Gerevini, 1989, Milano